皇太子殿下のご婚約を祝う

木

下

是



平成四年度年次晩餐会にて

されたことがない。 姿を記憶している会員も多いと思う。 会員の一 年半 浩宮徳仁親王が本会に入会されたの 下の 九八七年七月八日 だという。 殿下は年次晩餐会の出席を欠か 私学会館での年次晩餐会で新入 後である。 人として壇上にならばれたお 初登山は五つのとき、 皇太子になられたのはその 皇太子) ご入会の年の十二月 がお連 Ш は (会員番号一 信 れに 越 線の なっ 天皇陛 た

合雄さんの直弟子、

渡辺政子さんがよ

殿下はスキーにもご熱心だ。

猪谷六

ル

お相

手をつとめているが、

彼女がほ

と皇太子さまに宮内庁首脳がつた "雅子さんの件はおあきらめ下さ

くちぐちに申し上げたいのが日本山岳 おめでとうございます」と 雄 0 わられ 大学では谷川岳、 馬連峰、高等科時代に金峰山 では五龍岳、 足をのばされた。 ッジの壁に殿下の写真を発見してう よく見える宿フィッシュ・テー しく思ったことがある。 アンナプルナやマチャプチ 大雪山、 その後も荒川

朝刊)。

ちに山好きになられ タンを訪問して先方の王室と親しく交 られる。八七年春にはネパール、 石岳、白根三山など南アの山々、 陛下とご一緒に何度か山に行かれるう えるこんもりとした小山だ。 学習院中等科のときに燕岳、 軽井沢の間で線路のすぐ北に見 筆者はポカラ (ネパール) 常念岳と山歴を積んでお 毎日一 白山……と 蓼科山、 月七日朝 それから + 岳 北ア ブー 白 赤

会員一

同の真情であろう。



1993年(平成五年) (No. 573)

本山岳会 В The Japanese Alpine Club

定価一部 150 円

皇太子殿下のご婚約を祝う木下是雄…(1) 海外の山………(2) 「クライミングとオリンピック」 ゴールデンウィーク期間中新山研の 利用について(お願い)……(2) 計報 平野隆司氏………(3) 四年記 「年次晩餐会に谷口現吉君と」「ブ ロードピーク登山と植林トレッキン グ隊員募集」「アマダブラム冬期登 頂」ほか 図書紹介……(6)

犬ぞり隊、南極大陸横断す」「森を 考える」「甲斐の山山」「山里寿男 ス ケッチの山旅12ヶ月」 告.....(8)

「講演会 登山者による自然破壊につ いて考える」「支部年次晩餐会と室 賀氏の藍綬褒章受章祝賀会」 会現地集会報告」ほか

自然保護随想…………

12月定例理事会, ルーム日誌, 異動、山研・ナムチャ合同募金応募 書籍・雑誌受入報告、新入会 員(復活),住所・住居表示変更 お知らせ………(14)

▶日本山岳会事務取扱時間

月,火,木,土曜 10時~20時 13時~20時 水,金曜

▶図書室開室時間

日曜・祭日・月曜を除く毎日

筆者が学習院大学 然科学) める腕前である。 学部にいたこ 3234 教養演習 をもたさ 自

六六五

お知らせテー 日曜・祭日は休み 13時~20時 プ電話

皇太子妃) 論する形式のセミナーだったが、 た殿下が進んで受講された。学生達が ポートを出された。 いくつかのテーブルを囲んで座って議 に心強い。 学びよく遊び、 た」こともあるという(朝日一月七日 のインストラクターになろうかと思 いますよ」と何ったこともある。 はよくその空気に溶けこんで、 える新聞記事を通読して感嘆するの れるのは、 仕事に取り組んだ方が皇太子妃になら 婚約までの七年余りの経緯をつ ルに熱中されたようだが、「スキ ・和田雅子さんは中学時代ソフト 海外での生活もふくめてよく から「おもしろいと言 日本の将来にとってまこと しかも外務省で本気で 部史学科 り上げたら、 皇后陛下 れて「スキーの科 をテーマに取 一年だっ (当時 殿下 T

うございました」と申し上げたい。 諸氏とご一緒に、もう一度「おめでと 氏は「もうダメだと思ってからが勝負 だ」と心得ておられよう。殿下は形勢 長年山のぼりと取り組んできた会員諸 のに殿下が初 えたこともあった まったく非となっても粘り強く事に処 して望みをとげられたのである。会員 一念を貫かれたことだ。 (毎日一月八日朝刊

ゴールデンウィーク 期間中の新山研利用

山研運営委員会

について(お願い)

み受付けをいたしますので、よろしく ます。そこで、なるべく多くの方々に お願いします。 員(三十名)を上廻ることが予想され と同じですが、開設当初は希望者が定 ンウィークに限って、次の要領で申込 公平に利用頂けるよう今年のゴールデ いよいよ開所となります。 本年四月二十九日から新しい山研が 料金を除いてほぼ旧山研 利用の方法

、申込方法

号、人員(会員・非会員別)、 日を記入して申込んで下さい。 往復葉書に、 非会員のみの申込みはご遠 住所氏名、 会員番 今回 利用

クライミングとオリンピック

(フランスの委員)といった論議が続いた。 る可能性がある」とセガンチーニ会長は言い、「九十二 たら、二千年以前にもオリンピック競技に取り入れられ C)に働きかける、という報告がなされた。「もしかし 人いるIOC委員を説得するためのロビー活動が必要」 に採用してもらうため、国際オリンピック委員会(IO A)総会で、フリー・クライミングをオリンピック種目 年十一月に松本で開かれた国際山岳連盟 Û I A

て五輪参加の実現に尽くしたい、というような発言が い、長い演説をやった際にも、 閉会のパーティーの席上、日本山岳協会の会長が長 日本としても全力をあげ

するには、その強度や安全基準を検討しなければならな が決まった、という(「山と渓谷」二月号)。 い、との趣旨のようだ。 技の舞台となる「人工壁」のことだ。国際競技の舞台と ツ・クライミング・ボード研究委員会」が発足すること クライミング・ボードとは、屋内でのクランミング競 その具体的な方策の一つとして、日山協内に「スポー

ことを紹介して「その場合、女性の部の方が人気が出る る。その時は、そういう発想で動いている人たちがいる 稿した「登山の変質」という小論の中でふれたことがあ ついて、筆者は「山岳第八十三年(一九八八年)」に寄 フリー・クライミングのオリンピック参加の可能性に

ルド・カップ」が開催され、 だろう」と予想しただけなのだが、 日本を含め、世界各地でクライミングの「ワ という状況にまで到っているらしい。 結構な人気となっている。 事態はIOC委員の

る。 しれない。しかし、問題も生じる。 の間に、エキサイティングなスポーツとして広がるかも 「トップレベルのクライマーが直面している問題 テレビでさらに紹介されれば、 指の関節障害だ。中には一二、三歳の少年のケガも 山と無縁だった人たち が

か」(香港委員) ているし、今後ますますこの傾向は強まるのではない 最近は、コンペに参加したいから、という初心者が増え 「クライミング競技と登山の関係をどうとらえるか。

ある」(フランス委員)

のご機嫌伺いをしなくてはならない、というふうな発想 かのような受けとめ方と、国際的な山岳組織が、IOC ふれた、美しいものというだけではないらしい)がある ばしば指摘されているように、内情はスポーツ精神にあ は、登山の隆盛とは別、ということだろう。 けでは防げない指のケガがあるのだろうし、競技の隆盛 筆者が気になるのは、スポーツ界の頂点にIOC などの問いかけが、UIAA総会でもあった。鍛練だ

られた場合、それは登山の本質とは別の部分の動きだ、 ということを、今からはっきりさせておいた方がいい。 なるわけでもなかろうが、 フリー・クライミングがそのまま競技クライミングに 万一オリンピック種目に加え

だ。日山協の立場にもその匂いを感じる。

江本嘉伸

料金は現地で支払って下さい。
四、宿泊料金、会員二千五百円、非会四、宿泊料金、会員二千五百円、非会四、宿泊料金、会員二千五百円、非会

\triangle

計報

平野隆司氏 (会員番号七二一二番)

本会高所登山研究委員会委員、平 大三分、膵臓ガンのため逝去されま 十三分、膵臓ガンのため逝去されま 日のところ、十二月十一日二十二時三 大三分、膵臓ガンのため逝去されま 大三分、膵臓ガンのためがあまされま 大田でお知らせ致します。行 本会高所登山研究委員会委員、平 本会高所登山研究委員会委員、平

八五年カンチェンジュンガ登山隊に進の指導にあたり、本会主催の一九本会入会後も若手のホープとして後いツラ峰、ヤルンカン隊で活躍し、ツリラ峰、ヤルンカン隊で活躍し、

山



谷口現吉君と

金山淳二

ちった。
年次晩餐会には毎年出席している

な、登攀隊長として参加されていた。 葬儀は、十二月十二日十四時より 多摩市のフリー・メソジスト桜ヶ丘 教会において行われたが、若くして 表において行われたが、若くして 大山岳部、桜門山岳会関係者の他、 古大山岳部、桜門山岳会関係者の他、 本会からも、高所登山研究委員会、 カンチェンジュンガ登山隊員、ナム カンチェンジュンガ登山隊員、アンチェンジュンガ登山隊員等多数が参列し チャバルワ登山隊員等多数が参列し で予意を表した。

平野マリ(妻) で遺族 調布市柴崎二―十三―三

んが来られ、

空席のままにしていたこう後、直ちに当の杉野目さ

晚餐会終了後、

 $\widehat{\mathbf{Y}}$ M

教授でおられることを知った。

とを詫び、名刺を渡され、初めて北大

ところが今年は谷口君は亡くなり、ところが今年は谷口君は亡くなり、上げない方なので心待ちしていたが、上げない方なので心待ちしていたが、上げない方なので心待ちしていたが、上げない方なので心待ちしていたが、開宴時にもまだ空席の起車一さんは原門のご案内を終え、テーブルの皆さんを紹介されたがまだまだ空席。そして松田さんは「杉野目さんにはさったのと紹介されたが、他のテーブルにおられるようだ」と話された。

ここからは私の推察だが、その席はここからは私の推察だが、その席はけられる北大の橋本誠二名誉教授のたけられる北大の橋本誠二名誉教授のために予定されていたのに、急に欠席となり、同じ北大教授ということで、杉野目さんの席に代えられた。しかし、その席の右隣りが北大の名誉教授で、日本山岳会の前々会長佐々保雄さんだったので、「穂高」テーブルを敬遠さだったので、「穂高」テーブルを敬遠さだったので、「穂高」テーブルを敬遠さだったので、「穂高」テーブルを敬遠さだったので、「穂高」テーブルを敬遠さだったので、「穂高」テーブルを敬遠されたのだと思われる。

た右隣りの椅子に、しおりやカメラと 大に、誰かずっと座っていたのではな 大に、誰かずっと座っていたのではな

植林トレッキングブロードピーク登山と

次号追記あり(九二・十二・十五)

隊員募集!!

長年に亘る登山活動や軍事駐留など 長年に亘る登山活動や軍事駐留など 本年五月、ブロードピーク(八〇四七 が、登頂を目指す登山隊(隊長・関根 が、本会会員)が、その登山活動の 中で植林を計画するとともに、今後も 中で植林を計画するとともに、今後も 本会会員)が、その登山活動の 中で植林を計画するとともに、今後も 本会会員)が、その登山活動の 中で植林を計画するとともに、今後も 本会員設、苗木一本五〇〇〇円で オーナーを募集している。

る予定。 本 計画ではバルトロ氷河の下端にある 計画ではバルトロ氷河の下端にある 計画ではバルトロ氷河の下端にある

明ーン・クラブ 四八 名称 ヒマラヤン・グ 四八 名称 ヒマラヤン・グ 事金の送り先は次の通り

ブロードピーク・沢田幸子 日座 九七一六二八 名義銀行振込 住友銀行高島平支店 普通

田幸子 めに、ポーターへの燃料支給と宿泊方 生活発展と今後のカラコルム登山のた 日本ブロードピーク登山隊 遠藤京子 ヒマラヤン・グリーン・クラブ は次の通り。 りは本年三月末。 脚者各八名)計四十名を募集、本年五 クな造林活動に従事する。申込み〆切 地でヒマラヤに緑を甦らすべくユニー 月二十四日~八月十五日に亘って、 領で募集している。 表・遠藤京子=本会会員)を結成する 0 方、植林トレッキング隊員を次の要 なお、この登山隊では、現地住民 ヒマラヤン・グリーン・クラブ」(代 A·C班(各十二名)、 ☎&X○七七五-三四-○九一 ☎○三一三九一八一三二七 〒170豊島区西巣鴨 同隊ではこの基金運営の 〒50大津市北大路三—一五 詳しい問い合わせ先 B·D班 一二六 会計 代表 ため 健 沢 同

"Das gibt's nur einmal"

Heut' weiss ich nicht was ich tu'! Wo ich gehe? Wo ich stehe? Lachen die Menschen mir zu! Heut' werden alle Märchen wahr!

厚

隊長)に参加するため、ナムチャバル ワ隊帰国直後にネパールに向っていた

カモシカ同人冬期登山隊

(笹原芳樹

アマダブラム冬期登頂

Vom Paradies ein gold'ner Schein. Das gibt's nur einmal, das kommt nicht wieder, Das ist vielleicht nur Träumerei! Das kann das Leben nur einmal geben, Vielleicht ist's morgen schon vorbei!

Das kann das Leben nur einmal geben, Denn jeder Frühling hat nur einen Mai!

Jedes Pärchen, glaubt das Märchen, Liebe hat ewig Bestand. Doch du weisst es, einmal heisst es, Reich mir zum Abschied die Hand. Dann ist der Himmel nicht mehr blau, Dann weisst du's ganz genau.

先輩が清野画伯のスケッチ・ブックに が、これは私が覚えていたのを、 書き留めたものです。 書 したコピー が私の手許に

成功した。 登頂に成功。 ラム峰(六八一二片)

に南西壁からの

残りの三隊員も翌七日に

青田浩隊員は、

+

一月六日、

T

イマダブ

清野・今井両名の古稀を祝って、 折でした。ご参考までに。 山岳会が実施して呉れた「蔵王行」の 亡くなった後藤幹次先輩の喜寿と、 (十月二十八日) 稲門

nur einmal"

今井友之助

安達太良・鬼面 山 (王)

とっては、懐しい歌で忘れられません。

和初期に学生時代を過した者に

イプしてお目に掛けます。 詞は大分欠けておりますので、

六~七頁の山口氏のお手紙の中の歌

全部タ

山』十月号拝読いたしました。

人影をあまり見受けない山を探すの 麻生 ある が…。 うなり声をあげて吹き、寒さを募らせ とがしばしばある。 その苦労は楽しい苦労ともいえるのだ が ている枯れた山径には人影も鳥の姿も に覆われている。季節風が絶え間なく が溶けてただ荒凉とした茶褐色の風景 る十一月の奥羽の山は、一度降った雪 紅葉は終り、冬がすぐそこまできてい 登った安達太良連峰の鬼面山は、 にたがわず全く静かな登行であった。 じ山でもとても静かになってしまうこ 山形から日帰りの晩秋の山として 、近頃は苦労のひとつとなっている。 しかし少し季節をずらすと、 狙い 同

なかった。その恐いような寂寥感の只 中を独りで登った。 (

として、私は自由に自分の息を吸える 溢れている今の世の中で、同じ繰り返 ていうものとも違う。物質文明に満ち ここに来た。 しから一旦離れて自分をとり戻す手段 単独行ではあるが、それは孤独なん

との触れ合いが好きだからこそ、それ みるのかも知れぬ。 を確かめたくて山の寂寥に身を置いて 山してまた帰ってゆく町の世界の人々 を山に向けて登っている。それは、下 だ。だからといって人の世が嫌いなの ではない。寂しくてたまらない気持ち いってみれば、ただそれだけのこと …私の場合、 人恋

法の改善策を考えているという。

Wein' ich? Lach' ich? Träum ich? Wach' ich?

Heut' wird mir eines klar: Das gibt's nur einmal, das kommt nicht wieder, Das ist zu schön um wahr zu sein! So wie ein Wunder fällt auf uns nieder

しくて山へ来るのだ。

573-1993・2・20 (第三種郵便物認可)

とも重く険しい顔つきだ。磐梯も吾妻 立った。 れたスキーコースを辿り、旧野地峠に 手から登り始めた。落葉の敷きつめら いる灰色の日だ。 も姿を見せず、風と霧が激しく動いて してくれたのだが、今日の雲ゆきは何 の中に新野地に入り、相模屋の直ぐ裏 福島で高速道を離れ西に向った。 昨夜の満天の星は晴天を約束 朝

ゆく。 なかまど、の実が散らばっている。点、 だ。落葉の上にはところどころに"な が脳天まで快いリズムで響いてくる径 熟した赤い実が、一面にそのまま落ち 模様に見とれるよりも、こんなにも成 点、てん、 があるからだ、とも聞いたが。 ななかまどの実を啄ばまないのは毒性 べないのだろう…。一説によると鳥が に目を引く赤い実を、鳥たちは何故食 ているのを訝しく思った。この鮮やか 週間前の雪が斑に残っている径を 落葉のしんなりしたクッション てん…枯葉の上の朱の渋い

に向う径を辿っている。と、「何故、 吹きぬける西風の声を耳にしながら頂 踏みながらの気持ちのよい尾根だ。 て鬼面山の稜線を登る。数日前の雪を の枝のトンネルを潜り抜けるようにし 梯山は既に雲の中だ。裸になった灌木 た。北に吾妻の峯は見えるが、 行く手の箕輪山にも雲がかかってき 人に出会うこともなく、狭い尾根を 、西の磐 Ш

て頂いた。

すると、そのうちの一

枚に

よぎったりする。かのマロリーの答え のが己を納得させる言葉だろうか。 のように「そこに山が…」とでもいう になんか登るのか」という問いが胸を

ウエストンのスライドに 名取運一の家が

続くー

田畑真

りしていて、屋根をみっしり萱でふい 通りである。このときには当時の村長 た。記録(『極東の遊歩場』)が伝える 安村から北岳(三一九二片)へ登頂し た。しかし、その家は現存しない。 た広い家だった」(前掲書) などと述べ ・名取運一の親切により、村長宅へ宿 ウエストンは明治三十五年八月、 ウエストンは 「村長の家はしっか 苔

広原氏宅を尋ね、複製スライドを見せ 複製も受けて持ち帰った。私はその後、 意を受け、ウエストン旧蔵スライドか 版)があった。広原氏は同クラブの好 りの地・英国へ飛び、アルパインクラ ら芦安村に関係するとみられる四枚の ブなどを訪ねた。現地での報道 運一の孫に当たる広原信行氏(伊東市 在住)は、ウエストンをしのび、ゆか 一年一月十八日付け「朝日新聞 ところで去る平成元年十二月、 (平成 名取 欧州

家が画面中央に見えるのである。 り。ウエストンのほほえみが思われて 上、これを拡大して眺めると、現存し 何とウエストンが泊まった名取運 氏の深い思いによって日本への里帰 ていたスライドである。これがウエス ウエストンが述べた通り、萱をみっし 末な家が点々とする中にあって、名取 ない家が幻のように現われてきた。 トンをお世話した名取運一の孫・広原 九十年ほどもウエストンの故国に眠っ 屋も見えて、明治の風情の再現である。 りとふいた家である。近くには水車小 運一の家だけが白壁の二階家である。 便宜 の 粗

ならない。 会員・吉沢一郎氏ならびに副会長・松 ンクラブを訪ねるにあたっては、名誉 最後になったが、 氏の格段のご高配があった。 広原氏がアルパイ

テレマークを教えた 今西錦司氏

四三六 月原俊二

松宮殿下の話を先にしよう。 大山の大山町の一隅であった。 の上に一夜泊まるのだった。所は伯耆 あったと思う。冬期練成というので雪 よる冬季練成会に参加してのことで 時は忘れたが多分日本山岳会主管に 今西さんは後で登場するが、 まず高

> 破れ雪が降りこむので殿下は「白足袋とであった。中の小屋に入ると天井は 貰え」とお供代表の山崎瑛子さんに言 (吉田首相のこと)に言って修繕して 中の原で殿下の後ろに追随してのこ

われた。 に廻すようにした。 杖の手は挙げて身体と同時に回転方向 するのがなかなかに容易でなく、 だったが、回転ごとに身体全体を低く ど低くしないで廻る方向に向けるの 面すれすれに折り曲げる。左足はさほ 場合は、 転ごとに腰を低くし、例えば右回 風に説明すれば、一本杖であって、 方である。当時の一般的な技術を講釈 桝水原の斜面を使用した松岡旅館の上 た。主題のテレーマークのゲレンデは とくにテレーマーク技術は美事であっ 今西錦司氏のスキーは欧州仕込みで かように殿下は庶民的であられた。 回転方向の足をとくに低く雪 本 転の

だった。 た。しかし、 に前傾姿勢をとる、いわゆる谷足に重 グに前傾バンドと言った代物で足元を く直立姿勢で背骨を伸しているもの くすることは今の技術と同じであっ 心を置き、 締め、回転方向の手を雪面を搔くよう と少し相違した。即ち前傾姿勢ではな また当時のスキーは単板、 そのため足先の大胆な折り曲 山足は追従する程度に軽る 今西氏の回転姿勢はこれ ビンデン

はつながりは深いようであった。 マークの先生は今は亡く、私も年老い 若松の西隅に若松ゴルフ場が出来、 てきたのでよくわからない。 さて、今にして思えば高松宮殿下と そのどちらがよいか、 ことの序でに記しておこう。北九州 一本杖のテレ 宮

デーにも写真を一枚ずつあげなさい」 ます」と返事をした。 とのお言葉があったので「ハイ、あげ 緒で記念写真をときた時、 カメラマン、この女のキャ な、

りこんだ。この日は壮年組優勝であっ 逃げ、ラッパ口で大転倒、前傾バンドは の跡「アワ」で泳いで困っているのを あった。 たが、ラッパ口の急斜面の大転倒の際 パロ→元谷→神社→博労座ゴールで 合目よりスタートし、北壁直下→ラッ 争奪戦で、三十五歳以上は壮年組とさ 伯耆大山では第何回目かの高松宮盃 その壮年組のコースとして夏道七 先発組が大山北壁直下の雪崩 口に咥えたままで博労座に転

山研募金に協力しましょう!

HKの佐野さんに教ったのであろう 福岡頑張れ!月原ガンバレ! 0

げが肝心であっ

殿下のお声がしたそうである。 また、国体大舘会場で壮年組滑降で

のことである。

れたので、「ハイ、避けまーす」と応え イ!を呼んだら、避けヨーウ」と言わ おーい、先の者、私がバーンフラ

ことしばし、 それから、 宮様のゴールインを待つ

カメラマンで出場した。終りに宮様も 安川電機に務める末松大助君の紹介で 殿下夫妻をお出迎えすることになり、

なった。 拍手をもってお迎え下さい!」と 宮様がゴールインなさいます。 3

短歌

荒川三 一山花訪ね旅

薄桃のシモツケソウの花に触れこれ さあ頑張ろう 流る汗拭い木の間に荒川の雄姿を仰ぐ り千枚荒川の道

ひたすらに登り続けて六時間千枚小屋 の鐘が聞える しらびその森の鎮まる一隅に天を留め 駒鳥の池

刻々と山は明けゆく美しきモルゲン ば満天の星 山の歌山の談話に満たされし時を過せ

一九八六年、北極で奇跡的に出会っ

全編に漂うユーモアと飾り気のない語

山道で黒百合何輪見ましたか西郷先生 麗しき高嶺の花よビランジーその花片 の様な雲見ゆ ートに山 鳥の声

ね旅 青春の夢が再び叶えらる荒川三山花訪 優しく問わる

夢叶う素敵な夏山ありがとうお世話に なった山の皆様



犬ぞり隊

南極大陸横断す

舟津圭三著

さえるのに役立っている。いわば醸成 半が過ぎ、この時間は著者が自らの行 四〇まを犬ぞりとクロスカントリース 人隊員舟津圭三氏の手記が出版され 動と思考を客観化し、不要な興奮を押 た。一九九〇年三月のゴールから二年 キーで走破した南極横断国際隊の日本 時間といえよう。 九八九年七月から七ヶ月間、 六〇

> よって受け継がれた訳である。 けた故植村氏の夢と精神が舟津氏に よる極地探検の、文字どおり先鞭をつ いたのに似ている。我が国の犬ぞりに 尉の報告会を聴いて南極への憧れを抱 極への夢を膨ませ続け、夢を実現させ ティガーが言ったという。小学校時代 ている著者に誘いがかかる。黙々と働 評判が高く目に見えぬ恩恵を受けたと 者は商社を辞め米国の野外学校で働き ンヌによってこの計画は生まれた。 に南極観測船「ふじ」を見て以来、 く著者の姿は禅僧のようだったとス いう。 ながら学ぶ。尊敬する故植村直己氏の 転車による冒険のスタートをきった著 たW・スティーガーとJ・L 故西堀栄三郎氏が若い日、白瀬中 南極へ連れていく犬の世話をし エチエ 南

く。 う。このことがどれほど難しいものか、 著者の自然な態度の現れだろう。 いの立場を尊重し合った結果だとい 大きなトラブルもなくやれたのは、 の性格と行動が個性的に語られてい 続一にもプラスの思考で乗り切ってい 日常生活を振り返れば明らかである。 岳地带、 著者の態度は一貫している。困難な山 文化、言語、習慣の異なる六人が 南極に対して気負うところのない 南極を楽しもう。」肩ひじ張らぬ ブリザードの猛威、停滞の連 互

り口は著者の人柄そのままである。 ることの喜びと大切さを味わうことが るだろうし、 在り方を考えるうえで大いに参考にな できるだろう。 にひととき極地を旅し、夢を持ち続け 人と人との関係やこれからの世界の 著者の案内で犬たちと共

社刊 定価一五〇〇円 九九二年七月二十三日発行 三〇二寅 カラー 宇都木慎一) 口絵十六百 講談 表など、幅広い資料を収録している。

森を考える

日神ブナ原生林

からの報告 根深誠編著

ラ、イヌワシをはじめ数多くの動植物 り世界でも有数の場所であり、クマゲ は い所とされている。 が生息していることでもかけがえのな ブナ原生林としては日本はもとよ 田県と青森県にまたがる白神山地

なり、さらに国の一 中核部分が「森林生態系保護地域」と 運動によって、工事は凍結、 村へとつなぐ予定だった通称 森町から青森県鯵ヶ沢町および西目屋 な林道工事が始まっていた。秋田県八 できて伐採が進み、さらに奥地へ新た 近年、 がそれである。多くの人々の反対 その貴重なブナ地域に林道が 自然環境保全地域 同地域の 一青秋林

えさせられた。

名、民俗、

地質、

植物など、

かなり 山

気になる点として、

著者は、

名、

いところだ。 に指定されたことは、 まだ記憶に新し

孝一、 ジャー 父母道…ら自然保護団体関係者、学者、 とめたものである。 発と保護との攻防の顚末を、 この本は、その青秋林道をめぐる開 座談会、それに県議会議事録や年 沼田眞、 ナリスによる論説・インタビュ 原剛、 編者のほか、 本多勝一、工藤 一冊にま 鎌田

て生きる可能性を残すことだと世論が 林と動植物を守ることが自分たちの暮 道にメリットのないこと、 推移していく過程が示されている。 らしを守ることであり、 道工事が、反対運動の高まりと共に、林 過疎からの脱却を理由に計画された林 章から成る。章立てからもわかる通り、 ゆらぐ/開発と保護の記録をみるの四 然とともに生きている/開発の根底が 森に乱伐の音が鳴りひびく/人は自 将来にわたっ むしろブナ う。

とは「人も自然も」生き残るための唯 でもある。この本を読んで、 地域」の指定など、林野庁も新しい方 り残ったが、最近は 向をうち出すまでになった。このこと 頃には、自然保護運動側に敗北感ばか の道なのだということを、 かつて南アスーパー林道に反対した 現状がセッパつまったことの現れ 森林生態系保護 自然保護 改めて考 る。

H 九九 五三三頁 一年七月一 定価二六〇〇円 一十五日 立風書房

緑

山 小林経雄著

甲

一斐の

Ш

は、 あっても山梨県とよく言われる。 甲 山となす程山があるとの意であろ ・斐とは山梨県のことである。 本来 Ш

この沢山の山梨の山を、

行政区分で

なく、 のヒントを与えてくれそうな本であ りを企てている者にとっては、 を選び、ルートを探そうといった山登 る追認登山にあきたらない、 て分類している。 根筋をたどり、十五のブロックにわけ 手あかのついた、 実際の山行向きに、 ガイドブックによ 主として尾 自分で山 かなり

る。

慮している。 峠名の索引もあり使う側の便も充分配 山域に分類している。 Į 流域、天子山塊、 金峰山、茅ヶ岳周辺、 周辺、多摩周辺、大菩薩、 同Ⅱ、身延山塊、 八ヶ岳、南アルプス 御坂山塊、芦川 参考文献や山名 富士山と十五の 笛吹川流域、

山中湖周辺、

道志、

秋山、権現山

ある。 のは、 引きもみても、 明治以降の山岳文献で「嶽」を使った わりに岳の字を用いているのが普通で かめしい山を表すが、今日では嶽の代 ろうか。「嶽は別字で、ごつごつしたい 頁でかたづけられる程、単純なものだ 峠名由来考を書いているが、わずか三 乢 に魅力があるのではないか。序章で、 である。 複雑奇怪なのが自然であり人間の営み ある点である。パターン化できない程 無理してパターン化しているきらいが を始め、 ある」と断定されるとショックである。 日本山岳会も、設立「主意書 高頭式の『日本山嶽志』だけで 嶺、 だからこそ、つきぬ泉のよう 機関誌も『山岳』である。 岳についてとか、山名、 岳は嶽の古字とでてい 字

ない。 ず、 筆者の所属する新ハイキングクラブに 名を新設していることである。これは がちがうので仕方のないことである。 引きに出ている。「郡内では峠をつ から山の天辺をいう言葉で、これも字 あるが」と記しているが、 『甲斐国志』をあげているが、双方筆者 もう一点、仮称とはいいながら、 その責任の一端があるのかも知れ 決して嶺の字を使っていない」と 嶺は本来、 ヒマラヤの初登頂ならいざ知ら 考を要する 山のみねつづきの意で 嶺 は昔 山 か

本である がたい魅力を改めて問いかけている一 山高きが故に尊からず、ヤブ山のすて 高く有名な山に人気のあつまる昨今、 の尾根筋を歩いたものである。とかく、 とはいうもの 0 よく丁寧に、 山梨

るが故だろうか。 対象とならないのか、 プス支稜の山々が落ちている。登山の 別当代山(二二一五)といった南アル 山(一九三七)、鷲ノ住山(一五三五)、 わけか、大唐松山 いへんな数である。 異称をふくむ)、峠数は二一三、た ちなみに、登場する山は、 (二五五五)、雨池 しかし、どういう 或いは支尾根な 四五七座

平成四年三月一日発行 三五八頁 定価 八〇〇円 山村正光 新ハイング

山里寿男

『スケッチの山 12ヶ月』 旅

山里寿男著

うという気を起こす。そんな親しみの せてくれる。 持てる料理に出会ったような気分にさ 養価も高い、そんなフルコースの食事 美味であって、 内容豊かで見た目に爽やで口にして しかも自分で料理してみよ しかも腹にもたれず栄 理由はここにある。

山岳とそれを彩る人と風物を素材と

Ļ り、春四月から山ではまだ冬の三月ま に盛りつける。その楽しみを存分に語 にとどまらない。各々の章の末尾に、 ありきたりのスケッチ入り紀行文の域 ターホルンも登場する。だが、本書は ズンの八月の章にチョモランマやマッ と文」とあるけれども、海外旅行シー 副題に「北海道から九州まで 歳時記」と呼びたくなる画集でもある。 りの絵を数多く配して、「山のスケッチ 山旅12ヶ月』を書き進める。題名の通 りながら、山里寿男氏は『スケッチの で十二の章にわたって、季節感たっぷ 画材で調理したものを、 スケッチ 山の絵

が本書をフルコースの料理にたとえた チに向く地点への行き方がしるされて そ北海道から九州におよぶ山岳スケッ 語ってくれる。さらに巻末に、それこ 術に至るまで、 て、 でもあってガイドブックでもある。 いる。画文集であって、スケッチ入門 スケッチ教室」の頁が添えられてい 画材の選び方から画面上の造形技 絵の描き方のコツを 私

して表舞台に出さない。行く土地ごと 立ち向かって絵を生み出すことの根底 けれども、そのような話題を氏はけっ には人間の心がある、と山里氏は言う。 そこにちらと顔をのぞかせる。 た山里氏の、絵とともにある人生が、 多年の経験の末に現在の画境に至っ 自然と

> 山里氏の人柄が横溢する嬉しい本だ。 に誘ってくれる。そのようにきさくな しょに山に行こう、山を描こうと、気軽 てやる、という態度ではなくて、いっ たえてくれる。山の絵の描き方を教え する氏は、その喜びを読者にわかちあ わる山岳風景を虚心に受けとめようと での人間的なふれあいや時々刻 刊 A5版 〇円 一九九二年十月一日 二三〇頁 実業之日本社 定価二四〇 宮下啓三) 々に変

-報告

講演会

登山者による自然 破壊について考える

目然保護委員会

北海道大学教授の「登山者による自然 ムで催された。 日(土)一八時四〇~二〇時JACルー 破壊について考える」が、十一月十九 自然保護委員会の講演会、小野有五

はないかと心配している。 ていて、そのうち山も同じになるので 残っている河川や海岸がどんどん減っ 小野教授は今、自然のままの姿で

今回のテーマ「登山者による自然破

2ゴミとし尿の問題 1植物や動物に与える影響

3登山者自身が歩くことによる侵食

4とくにヒマラヤなどで行われている ついて 燃料として用いるための木の伐採に

身が歩くことによる侵食にマトをし に分類し、 ぼって話がすすめられた。 山道を人が歩けばその地表は押しつ あとの時間は3の登山者自

裸地化がすすんでゆく。 押された土は硬くなりやがては雨水も 浸透しなくなってそこから植生破壊と 山靴のような硬い底で押した場合には

けられて周囲より沈みこみ、とくに登

がなされた。 甲田山・ヒマラヤでの例も加えて説明 査したスライドを中心に、夕張岳・八 北海道大雪山旭岳に通じる登山道で調 のかを一九八九年七月三十日 それでは幾人が歩くと山がこれわる (H に

らよいか。 登山者が登山靴で歩いても土を硬く

一度こわれた山道はどの様に直した

が提起された講演会だった。 らよいかなど吾々山を歩く者が真剣に とり組まなければならない多くの問題 しないためには、どの様な道を作った

横山隆、 坂井真、川合愛子、戸羽幸枝、 池田剛、山口悠紀子、酒井啓、 出席者 河西瑛郎、橋本清 武田満子、穴田雪江、 梨羽時春、 青木賢人、中保、大森弘一郎、 日比野経子、大宮 横山 市川義輝、 麦倉啓、 藤井健

8

支部年次晩餐会と室賀氏

の藍綬褒章受章祝賀会

賞受賞もあり、当支部としては藤島玄 今年はさきに平田大六氏の環境庁長官 四名の会員が集って盛会となったが、 氏や田仁代氏も出席されるなど、七十 餐会と併せて、受章祝賀会を開催した。 市における商工関係の業績が認められ 県山岳協会会長の室賀輝男氏が、長年 た続きの年となった。 初代支部長の叙勲以来という、おめで ので、十二月六日に越後支部の年次晩 て、文化の日に藍綬褒章を受章された に亙る山岳行政への貢献や、生地長岡 当日は新潟市の会場へ東京の片岡博 当支部の会員、 本部評議員で、 新潟 く、天気は午後から回復するであろう

期待や提言も多く聞かれ、来年度事業 る親睦交流を重視すべきであろうと らの身内の集いとなって、山の話で賑 惇一氏、花井馨氏、望月力氏が元気な 慮して、これからは下界での会合によ を共にする機会が少なくなる傾向を考 わったが、会員の高齢化につれて山行 姿をみせられ、久し振りに県内各地か への夢が広がった思いで、 いった意見も出るなど、支部活動への 今回も支部の名誉会員である佐久間 有意義な晩

餐会であった。

ご高覧を得たいと願っている。 集作業が集められて、来年度早々の出 版を予定しているが、広く会員各位の 三十余名から多彩な寄稿が集まり、編 山岳』第九号の刊行については、 なお、当支部の機関誌である『越後 会員

(佐藤一栄)

三水会現地集会報告

鍋割山

一七七回の現地集会は、

晩秋の山

が危ぶまれたが、関東上陸の恐れはな 関東地方に接近との天気予報で、開催 鍋割山で開催された。 を楽しもうと十一月七~八日、 七日は季節はずれの台風二十八号が 丹沢・

られなかったが、風は感じられず、天 空は灰色の雲に覆われ、 道を歩いたが、 **倉まではバスで、その先は二俣まで林** 気予報を信じて出発した。渋沢から大 経由の二コースから頂上を目指す集中 との予報で、予定通り行われた。 コースに加わり、午前九時渋沢に集合。 登山形式で行われた。私は大倉からの 大倉から後沢乗越経由、 今回の山行は鍋割山を集合地とし、 途中土砂崩れのため通 回復の兆は見 寄から鍋割峠

バス停着。バスで渋沢に出て、無事強

倉に向けひたすら下り、十二時過ぎに

一息入れたあとは、長い尾根道を大

で早々に出発。 しそうな空に加え、 終点で昼食をとったが、今にも降り出 行出来ず、対岸の道を迂回した。 風も強くなったの 林道

乗越は休まず通過し、午後三時前には なり、飛ばされた落葉や小枝が、顔や 屋の夜長を楽しんだ。 私たちも早速にその輪に加わり、山小 既に到着、酒宴を開いて待っていた。 頂上到着。頂上の鍋割山荘では寄組が 手に激しく当り、痛いほどであった。 後沢乗越付近では、風は一段と強く

に丸太を組んだ登山道が、手入れのよ を降りたあたりで青空が広がり、白雪 塔ノ岳に向ったが、山頂はガスで時折 大島までが見渡せた。朝食後、小屋主 と雪を頂いた富士山、 下山した。大倉尾根は花立の長い階段 富士山が見えるものの風強く、早々に い日本庭園を思わせた。 を頂いた富士山、紅葉と松の緑、それ の草野さんを交えて全員で記念写真。 八日は風も収まり、西に箱根の山 南に相模湾から

輝昌、塩沢厚、重村清、 田眞哉、 参加者 風と紅葉の山行を終了。 荒木正弘、久保孝一郎、 武田幸男、平沢哲臣 下野武司、 酒匂 高

酒匂輝昌

物は生活環境に順応する能力がある故

森を読む」 講演会

を聴講して

早川 滉

ます。 たのでその折の感想を述べさせて戴き 催で催され、私も受講させて戴きまし る講演「森を読む」が集会委員会の主 料館、生物系助教授大場秀章先生によ の二回に亘って東京大学総合研究所資 平成四年十月十四日と十一月十一 H

植生、 同平常数こぎで苦労しているからか或していると説明があった。ここでは一 と、地際から枝が出ているもので区分 相継ぎ議論百出となる。これに対し植 は庭の樹を良く見ているからか、質問 あり人が木の下を通り抜けられるもの れは高さではなく樹形で区分し、 つては喬木、灌木と呼ばれていた。 つのポイントに高木と低木があり、 る様に思えました。森の作りを見る一 くうちに森の仕組みが段々と解ってく メにある森を読むキーワードとして、 れずに進められました。第一回はレジ れましたが、本の内容には直接とらわ (岩波書店) がテキストとして使用さ (特に木の) の種を易しく解説して戴 講演には同先生の著書『森を読む』 植物相(Flora)、 相観、 幹が 植物 そ か

講演の内容に即したスライドの映写師の名回答に一同納得となった。にいろいろなケースが見られるとの講

を は なるものである。私は早速週末に近になるものである。私は早速週末に近になるが)確かに森は教えて戴いたではあるが)確かに森は教えて戴いたではあるが)確かに森は教えて戴いたではあるがりではます。 すっかり親近感を様になっています。 樹木は多種多様でることになります。樹木は里解出来た気をは奥深いものでした。

このパターンは全く変らない。地球規 この構成はヒマラヤやアルプスではこ ことを知ることが出来ました。 ない五○○○種もの種類を有し、そし 模で考えれば赤道から極地に向って同 の上に雪線があって氷雪帯となるが、 り、森林限界があって高山帯となる。 落葉広葉樹林、針葉樹林の順でせり上 した。森は低い方から常緑広葉樹林、 物環境に恵まれた宝庫に置かれている んでいて、 並みであり、 て森林が国土の六七%を占めブラジル 第二回はいよいよ山の森についてで 日本の植物の種類は世界にも類を見 世界的に見て、例外的な植 その上森林が多様性に富

自然保護随想

自然体験の試み

あれは一昨年、戸隠の森林植物園で探鳥会をしていたあれは一昨年、戸隠の森林植物園で探鳥会をしていたがら。

戸隠に着いた一行が、まずやったことは全員でブナのり、そのほかの人たちは戸隠に向った。り、そのほかの人たちは戸隠に向った。り、そのほなの長にちは安曇野で「ナチュラリスト・田淵行男」をテーマにした集会をもち、翌日、健脚組は常念岳へ登をテーマにした集会をもち、翌日、健脚組は常念岳へ登をテーマにした集会をもち、翌日、建脚組は常を続けている。

植物分類学、生物地理学で、 ゲ科の植物が発見され、これが世界最 ならではの命題である。先生の専門は かと言ったテーマで話が進む。 で高山ではなぜ植物が生育出来ないの 高処の植物の存在のようである。そこ 地点の氷雪帯でアブラナ科やキンポウ 毎年のよ J A C うな気になる。 の環境の条件をあげ、矮性化や、 しい花のスライドをたくさん見せて戴 特徴の説明があると共にこれ等の珍ら はクッション状植物等の高山の植物の いた。ヒマラヤの植物が納得出来たよ い命名のセーター植物、温室植物、或

じパターンが続くのである。この当り

なってくる。ギネスブックによればカ

うにヒマラヤや崑崙等に出掛けられて

から話はもうテキストにはない内容と

メット峰(七七五五紀)の六四〇〇紀

おり、

その二十年の研究の中から高山

をしてもらう手筈にしてあった。いては、現地でブナの再生に尽力している実践家から話苗木を植えることだった。「何でブナを植えるのか」につ

ですな」
「まるでツルゲーネフの『あいびき』といったところこそ、広葉樹の保水力を知る絶好の機会のように思った。
「まるでツルゲーネフの『あいびき』といったところが、おのずとブナやカンバの木蔭に身を寄せている光景が、おのずとブナやカンバの木蔭に身を寄せている光景が、おのずとブナやカンバの木蔭に身を寄せている光景が、おのでは、その翌朝のことだったから、雨宿りの人々

けるでである。 はなついた頂、ながい覧が前りは質問をこかいつった。 なが訳したことで知られている。昔、中学で習ったと、Sが訳したことで知られている。昔、中学で習ったと、Sが訳したことで知られている。昔、中学で習ったと、Sが訳したことで知られている。昔、中学で習ったと、Sが訳したことを呟いたのは、参加者の一人で老画

を支える市民をふやしたい」としか言えなかった。を支える市民をふやしたい」としか言えなかった。そうした人々を前にして私は、「皆さんの運動各地で環境問題に取り組んでいる活動家が勢揃いした感を地で環境問題に取り組んでいる活動家が勢揃いした感をしてつい先頃、ながく霞ヶ浦の水質調査にかかわったしてつい先頃、ながく霞ヶ浦の水質調査にかかわっ

蜂谷緑)



「英彦山の集い」 (関係記事前号)

> りがない、知識がない等今迄は通り過 ぎてしまっていたが、今やっと森の入 次の山行がまた楽しみになって来まし をこれからは大いに味いたいと思い、 森の恵み、大地の豊かさ、自然の喜び 口にたどり着いたような気がします。

のご活躍を祈念申し上げる次第です。 めて先生に感謝申し上げると共に益々

中を歩いています。

時間がない、

ゆと

さて、この集会には二回共アルコー

晩秋の加 無山

を利用して現地で「森を読む」勉強会 森を観察するには絶対の環境で、これ 爺ヶ岳を見上げる自然林の中にあり、 中綱、青木湖を見下し、上には鹿島槍、 するクラブ(早大岳友会)の山小屋が い雰囲気でした。たまたま、私の所属 ルの出る場があって、なごやかな楽し

森が芽吹く頃が楽しみとなりました。 加して下さるとの快諾も戴き、来春の たので、今度は仲間として勉強会に参 演が縁で大場先生はJACに入会され をする話が持ち上りました。今回の講

日本の山登りではその大部分が森の

出形支部

りあげた。加無山は、男九九七ば、女 男加無山登山を計画したが、五月初め る山である。 い様相を呈している。標高こそ低いも 部周辺は直立する岩塔や岩壁で、険し 多かったので、十一月の山行に再びと の豪雨で中止した。当時参加申込みも 行に、県北の加無県立自然公園の峻峰、 のの、岳人にとっては登高意欲をそそ 山形支部では、本年度最初の月例山

した丁岳や甑岳周辺の山なみ、遠くは

せ いたのが午前八時すぎ、 滝集落を経て、 町関沢荘から三台の車で出発した。大 一名を含む十名は、前日の宿、 ースの八敷代川に下る。 ない加無山に思いをはせながら、 秋晴れの八日、大橋支部長以下女性 登山口の林道終点に着 前山で姿を見 サワグルミ 真室川 参加者

大橋、

金森、

梅津、

菊

山頂では、

韓国岳人のこれまでの遭

サワグルミ等の巨木に、ネズコも混じ 徒渉をくり返しながら、ブナ、カツラ、 やブナの丸木橋を渡り、 は昨年の台号十九号による風倒木が る林相豊かな山道を登り続けた。 随所にその惨状をさらしていた。 その後数回 0

付近は薮状であり、笹と落葉をかきわ に変わり、皆で記念写真を撮った。 けて、三角点の標石を探しあてたのが 割から男加無の登りはやせた岩稜を上 正午すぎ、四時間の苦しい登りも歓声 危険な箇所もあり、疲労した女性を残 り下りする道で、 もった落葉のため足元は滑り易い。 して、男性だけで頂上に立った。頂上 帰路は白くなった鳥海山、灰白を増 つれ、登りは険しさを増し、厚く積 双峰の挽割(鞍部のこと)に近づく 途中崩落してかなり

栗駒、焼石、神室連峰等の眺望を満喫 とつの戒めとして、 この言葉は、息長く登山するためのひ 国の高山を登り続けている佐藤さんの う答えが返ってきた。高齢ながら、全 今日の私の頂上はあの地点です」とい 山行をしめくくった。 しながら下山し、平成四年最後の支部 おくことにした。 んを慰めたところ「あれでいいのです。 下山後、登頂を断念した佐藤節子さ 私は胸にしまって

> 地、 Sp] 部 早川英夫 松 田 (越後支部 佐 藤 (節)、 斎藤

太平山・智異山

姉妹山締結一周年記念

智異山親善登山 報告

秋田支部

特別市では本会、ならびに元老会の会 る友好を深めあった。 員などとそれぞれ再会を喜び、 訪れ、馬山市で韓国山岳協会慶南支部 の十月七日より一週間の日程で韓国を (支部長・朴英圭) と、また、ソウル 姉妹山締結一周年記念として、 さらな

の出迎えを受け、この夜は馬山市にお いて歓迎の会が催された。 り。金海空港にて多数の慶南支部会員 支部長)は、仙台市より空路で韓国入 当支部会員一行十五名 (団長 田

山し、初紅葉の美しい渓谷を辿って、 は、智異山の表登山口・中山里より入 雄大な眺めに一同大感激。霜柱を踏ん 天候に恵まれ、とくに途中にある帝釈 主稜線上にある場拠木山荘に宿り、 峰にて見事な御来迎を拝むなど、 日頂上・天王峰に登ったが、両日共に での楽しい登山となった。 両支部一行三十五名(CL・孫鎔変) その

(11)

結び、その直線延長上に智異山頂とそ

さらに、太平山頂と三吉神社里宮を

ることを土肥会員が説明。そして一同、 の本山・華厳寺が一串に連らなってい 末長い平和を併せて祈願した。 朝鮮の白頭山頂の石も奉納し、 友好の礎石として奉納した。また、北 難者に対し黙禱を捧げ、続いて鈴木 (幸) 会員が背い上げた太平山の石を 両国の

口に戻った。 にある寺・法界寺に下り、中山里登山 途中で朝食をとって韓国で最も高い所 の眺望を楽しみ、記念撮影の後下山 て山旅の安全を祈った。 東北東約一一〇〇ま先の太平山に向っ 快晴のもと、雄大な智異山地の山

あった。 車で送って戴いた。到着以来親身にま 夜遅く慶州のホテルまで同支部会員の さる接待にただただ頭が下るばかりで 送別の会を晋州市内で催して戴き、

でも親身にまさる接待をして戴いた。 特別市へ。市内観光の翌日、李載洪自 観光の後、特急セマウル号にてソウル たが、韓国の山はそれ以上にゴミはな を催して戴き懇親を深めあった。ここ しみ、その夜、韓国山岳会ならびに同 然保護委員の案内で快晴の北漢山を楽 元老会(会長・裵三鎮)より歓迎の会 最近、東北の山もゴミは少なくなっ 夜半、曹斗鉉理事に迎えられ、 、慶州 年がかりで整備改修した、庄内農山岳

る。 る。 違もあるが実に施設なども整ってい す窺われ昔とは大きく様変りしてい 具類も豊富で、日本製の減少がますま 流を占め、休日以外でも多くの登山者 () で賑わいをみせている。国産の装備用 登山者も日本と同じく中高年が主 入山料を徴収するなど行政面で相

さった韓国岳人の方々に、紙面を借り 心から厚くお礼申し上げておきたい。 最後に、滞在中たいへんお世話下

中に浸った一日だった。

佐々木民秀

清吉新道を歩く会 山形支部

清吉新道を踏みしめ登る企画が実現し が三十年前に精魂を傾けて開削された それには、長年の間に荒れた径を半 秋酣わの鳥海山で、故斉藤清吉会員

員の、 盛大に盃を傾けて、清吉さんの思い出 酒をこよなく愛した故人に相応しく、 集い、斉藤翁の息子さんも参加されて、 部〇Bを中心とした酒田在住の支部会 を語る夕べ』となった。 前夜は鳥海山中腹の山雪荘に一行が 汗と力に負うところが大きかっ

> あげながらも、自然のたたずまいを損 めて見直し、深いブナの森林の精気の トを登降した。徒渉点への急坂で音を 径に分け入った。荒々しく爽快な鹿股 うことなく切り開かれた径のよさを改 食物園の湿原に至る往復六時間のルー 沢を渡り、朱いななかまどが群生する 葉に飾られた鶴間池からひと気のない 翌る十月十一日は晴天に恵まれ、 紅

郎、佐藤豊記 良三、斉藤幸彦、佐藤達男、佐藤藤一 後支部〉〈山雪荘まで〉池田昭二、小松 加藤達男、金森繁三郎、後藤彰夫妻、 佐藤淳志夫妻、高橋毅、早川英夫(越 **参加者** 阿部勇作、梅津博、大橋克也、 (大橋克也)

会務報告

十二月定例理事会

十二月十日(木)十八時半~

評議員 中島監事、橋本、西村各常任評議員 小倉(茂)、大森、大倉、 出席者 関口、南川、藤井、山本、片岡各理事、 小倉(厚)、伊丹、村井、穴田、 (委任) 重廣理事、鴫原、斎藤各常任 山田会長、藤平、松田副会長 場所 本会会議室 入澤、石橋、 山山、

審議事項

、常任募金委員会開催について(小

たが、山研の資金については、なお約 二、山研補助金申請について(小倉茂 十九日(土)十四~十六時 場所 き討議をお願いしたい。日時 十二月 山岳会会議室 お願いをするため常任募金委員会を開 四〇〇万不足している。会員に最後の ナムチャバルワ登山も成功裡に終っ 日本

大倉…定期をとりくずすと不利なので 分を早急に支払う必要がある。 入金してもらうため山岳会の自己資金 時銀行から借入して対応したい。

自転車振興会よりの補助金を早期に

三、ナムチャバルワ登山委員会、 委員会について(松田 実行

める。 事務所は平成五年一月二十日過ぎに閉 新聞との共催の展覧会がある。 およびその帰属の問題、報告書作成、 に委員会を開き委員会を解散したい。 る報告会も終ったので、平成五年一月 般向け報告会、日中友好協会と読売 残務としては、持ち戻り品の整理、 ナムチャバルワ祝賀会、会員に対す 登山隊

四、女性懇談会の今後について(穴田) **八懇談会、** 九四九年婦人部として発足し、 女性懇談会として現在に 婦

の結論としては発展的に委員会を解散 したいとの動議が出された。 事経験者とも意見を交わした。 至ったが、 委員会内で何度か討議、 委員会 理

次期改選期まで討議を重ねることにす 今結論を出せる問題ではないので、

五, 点につき借用依頼があった。 品借用について(小倉茂 大町山岳博物館に寄託してある内六 栃木県立博物館より武田久吉氏遺

六、十一月理事会で報告された「茨木

資料委員会の動議が出された。 いて山口理事より茨木画伯の絵画は修 猪之吉」「中村清太郎」両氏の絵画につ しく修復不可能なので廃却したいとの 中村画伯の絵画は傷みがはげ

との意見が多く出され、再度検討する。 あるので慎重に調査検討すべきである の大先輩でもあり会の貴重な財産でも この動機に対し、中村清太郎氏は会

資料寄付のお願い

考を。 時考えて見て下さい。他に寄付す登山の用具、記録等、整理する る前に山岳会へ。捨てる前にも再 資料委員会

> 二、支部長会、年次晩餐会について 三〇、九七一、一二〇円、 六、一九七、九七九円 十二月七日現在 (小倉茂) 合同募金について(石橋) 会員一、八八八人 女性懇談会

平副会長が代行し、無事終了した。 者一一一名。・ルーム閉室 十九日~一月五日まで年末年始休みと 懇親山行 陣馬山 名、会長が急病のため欠席されたが藤 員出席。 ・年次晩餐会 支部長会 代理三人を含め支部長全 (十二月六日)参加 出席者六一〇 士二月二

いについて(大森) 日本山岳会と韓国山岳会の話し合

学生部

・十一月十七日ヨセミテクラ

を訪問した。 国山岳会、韓国学生山岳連盟等の方々 西自然保護委員の四名で十一月二十八 日~十一月三十日の三日間訪韓し、 藤平副会長、大森、 神崎両理事、 韓 河

開してゆくため、今後両国の山岳会が るよう話し合った。 友好関係を深め、信頼関係を作り上げ 日韓の登山者が実り多い登山活動を展 道峰山、北漢山を見学し、懇談した。

報についてご意見をいただきたい。 多くの情報が入力出来るので、入力情 ている。新パソコンは現パソコンより 十一月より新パソコンもパラランし 新パソコンについて

> 五、 るのはおかしいので、図書管理担当は に各委員会は提出して欲しい。 れた本があるが理事会にかけず廃棄す 図書室の図書の中に廃棄の印の押さ 来年度予算を平成五年二月一日 図書委員会より(山本) 来年度予算について(大倉) まで

善処していただきたい。 各委員会報告

青年部 マラヤ、チョンブー峰報告会 二十五日(木)映写会開催予定。 フイルムビデオ委員会 十二月二日東洋大シッキムヒ 平成五年 二月

> 7 日 2日

集会委員会 · 十一月二十九日忘年山 生部女子懇談会 ・十二月八日ナム イミング報告、上智・明学・法政・慶 チャバルワ報告会および忘年会 コンデ・リ峰報告会 ・十二月一日学 応四大学・十一月二十五日立教大、

尾根懇親スキー山行(現在四十名) 集会共催) · 一月十五~十七日八方 日晩餐会記念山行支援 ・十二月十二 行(十二月十三日)下見 ・十二月六 日JAC忘年会開催(総務、 女性懇、

印刷。 葉会山行」は静岡支部と共催する。 るトレーニング効果」 ・来年度「若 山岳編集委員会 ・二月二十~二十一日黒斑山 ・二月 一十四日講演会「中高年登山者に対す 『山岳』五三〇〇部

次回理事会一月二十一日(木)M六・三 新入会員承認 場所

日本山岳会会議室

田

中健

他十四名

IL ルーム日誌

(12月)

1日 アルパインスケッチクラブ、 学

青年部 総務委員会、 資料委員会、

8日 忘年会 学生部 アルパインフォトビデオクラブ 常務理事会、 委員会

17 19 18 H 図書委員会 常任募金委員会、 女性懇談会、 科学委員会 土曜会忘年会

16 15 14 12 11 10

H 日 日

三水会、図書委員会

フイルムビデオ委員会 アルパインスキークラブ

21 日 自然保護委員会 総務委員会

22

24

集会委員会

12月来室者44名

会員異動

会員異動

児島弘昌(八八○○)3・5・ 21

著者	書 籍・雑誌 受入報 書 名/雑誌名	告 1992年11月 版型・ページ	出版元	出版年	寄贈/購入別
田中三郎	増補新版. 六十歳からの日本三百名山	四六版/175 p.	東京新聞出版局	1992	著者寄贈
宅間修・清水克悦・津波克明	多摩の街道	A 5/182 p.	けやき出版	1992	宅間絹子氏寄贈
根深誠	白神の四季	四六版/126 p.	白水社	1992	著者寄贈
石井光造	静かな山	四六版/210 p.	白山書房	1992	発行者寄贈
銀谷国衛	山の気象と天気図	四六版/206 p.	白山書房	1992	発行者寄贈
Peter B. Stone 編	THE STATE OF THE WORLD'S MOUNTAIN	NS 23.5×17/391 p.	Zed Books Ltd.	1992	編集者寄贈
養浦登美雄編	山の本 2	A 5/144 p.	白水社	1992	発行者寄贈
本田靖春	評伝 今西錦司	四六版/380 p.	山と渓谷社	1992	発行者寄贈
田部井淳子	七大陸最高峰に立って	A 5/251 p.	小学館	1992	著者寄贈
水越崇子	稜線の山々 私の後立山連峰	B 5/83 p.	山と渓谷社	1992	発行者寄贈
國分富久子編	國分勘兵衛(貫一)遺稿抄	A 5/232 p.	国分株式会社	1992	編集者寄贈
廣瀬誠	立山のいぶき	四六版/381 p.	シー・エー・ピー	1992	著者寄贈
昭和山岳会設立 50 周年記念誌委員会	歩み続けて半世紀	B 5/310 p.	昭和山岳会	1991	発行者寄贈

山研・ナムチャ合同募金応募状況

(一月八日現在

しくご協力下さい。 再度のお願いをいたしましたが、よろ 調達が大きな課題です。既に皆さんに て、あとは主として山研のための資金 登山は成功裡に終り、山研も完成し

立見辰雄(四三三〇)4·12·13 全三二 12 10 宣、大沼良典

平野隆司

十七・八口、三千百七十万九千二百三 (累計一千九百二十四名、六千三百二

場所

山岳会ルーム

日時

三月二十五日休

んには大変失礼いたしました。 るのは加藤達男の誤りでした。加藤さ なお、会報五六九号で加藤幸男とあ

日時

平成五年四月十日(土)十三~十

◉山の自然保護を考える

シンポジウム予告

令お知らせ

(四十口) 今西壽雄 (計百口)、(二十

3234-6659

この電話で しています もお知らせ

●図書委員会の催し

第二十一回山岳史懇談会

題目 講師 北大山岳部の登山―戦前の回想 朝比奈英三、橋本誠二 を主として

第二十四回山岳図書を語る夕べ

講師

雄、廣瀬正、西川昭彦、信友浩一、山 関谷俊彦、平田眞士、籔田勝久、星勝 平澤哲臣、高木博郎、(一口)坂井厚、 政雄、小田孝、亀井正、鴫原義昭、吉 子、石原秀郎、瀧島清、井関扶、和田 節子 (計八・二口)、(二口) 石光久仁 酒井敏明(計九口)、(二・二口)山口 五・四口)、(三口)太田敬(計九口)、 ロ)三沢一三、(三・四口)武田峯生 口)、(五口)林田正幹(計十三口)、(四 同組合、(十口) 松田雄一(計三十 口)梅棹忠夫、(十六口) 関東開発協

原龍介、吉富亨、川里弘孝、大野秀樹、

場所 日時

山岳会ルーム

二月二十六日金六時三十分より

口力雄、山口光子、吹田佳晴、磯村義

今西錦司氏のことなど。 田口二郎氏

※次代に残そう美しい山と溪

※

申込み

ハガキに、氏名、住所、

電話

番号、会員番号、生年月日を

●日だまり山行

詳細は次号でお知らせ致します。

自然保護委員会

東京・青山学院大学

六時三十分

自生地にも寄ります。湿地を歩くので を、対比して歩きます。ザゼンソウの 長い年月かかってできあがった峠道 登山者によって崩壊した登山道と、

足ごしらえをしっかりして下さい。

集合 コース 西武池袋=正丸-伊豆ヶ岳 期日 三月二十八日(日) ザゼンソウ自生地-旧正丸峠 正丸=池袋(歩程五時間

地図 二万五千分の一「正丸峠 正丸駅前九時五分。池袋七時五 父行きに乗車する。 急、池袋七時三十六分発西武秩 三分に乗換え。または、季節快 分発飯能行き乗車。飯能発八時

14)

は困ります。 自然保護委員会主催

募金に協力したいとのことですので、

会員の皆様に、左記条件でお頒けし、

お知らせ致します。本会事務局宛申し

三日(火)締切り。電話申込み

員会宛申込むこと。三月二十

記入して、ルーム自然保護委

二月二十五日(木)午後七時より す。どうぞお出かけ下さい。 オ委員会主催の映画会は次の通りで 本会ルームにて。

山研落成記念

福原健司氏の作品、二本上映します。

◉版画「上高地旧山岳研究所風景. 頒布のお知らせ!!

景」を完成、三十枚刷り、そのうちの かして、版画「上高地旧山岳研究所風 れましたが、この度要望に応えて、こ ねて、旧山研を描いて、本会宛寄贈さ 研が解体される前に、記録の意味もか 番号一〇五五四番)は、昨年夏、旧山 にも展示されましたので、ご存知の方 した。(四号作品・額縁入り) れを下絵として、得意の版画技術を生 もあると存じますが、版画の特質を生 枚目を本会資料委員会宛寄贈されま この版画は平成四年度の年次晩餐会 本会京都文部の松田敏男画伯(会員

●16 『映画会のお知らせ

込み下さい。

月号にてご案内のフィルム・ビデ

| この中、一○、○○○円が、山研に寄 五、〇〇〇円+額縁八、〇〇〇円)。 編集後記▼新春早々素晴らしいニュー 付されます。 〔頒布価格〕三三、〇〇〇円(作品) $\widehat{\mathbf{Y}}$ $\widehat{\mathbf{M}}$

する。 おめでとうございます。▼しかし、十 スが入った。全会員が待ち望んだ皇太 が、平成五年も何か忙しそうな予感が わてた。ナムチャも山研もほぼ終った 日締切りの本紙のトップ入れ替えにあ 子妃の内定である。本当に皇太子殿下 (一月十一日、A·O)

平成五年二月二十日発行

発 102 行 所 東京都千代田区四番町五 編集代表 発行者 法社 人団 サンビュウハイツ四番町 厚郎 会 四

刷 東京都港区赤坂一―三―六 振替口座 東京三—四八二九番 株式会社

電話東京(3261)

四四三三

印

す。 かした十四色刷りの素晴らしい作品で 同氏は残りの二十九枚を広く、本会